

2014年 アジア・パシフィックマイクロ波会議 2014 Asia-Pacific Microwave Conference

H26会自12

開催日 平成26年11月4日～平成26年11月 7日 (4日間)
開催地 仙台国際センター
申請者 東北大学 電気通信研究所 教授 末 松 憲 治

会議の概要と成果

アジア・パシフィックマイクロ波会議 (Asia-Pacific Microwave Conference, APMC) は、アジア・太平洋地域におけるマイクロ波工学・技術の進展を目的に企画・開催されている国際的な学術会議である。APMCは米国を中心としたIEEE MTT-S International Microwave Symposium、ヨーロッパ諸国を基盤としたEuropean Microwave Conferenceと並んで、アジア・太平洋地域でのマイクロ波工学の学術および技術交流の場を提供する世界的なマイクロ波会議である。本会議は、第1回が1986年にインドで開催され、1992年までは2年おきに実施されてきた。さらにこの国際会議の継続的な発展を一層図るため、1992年以降は毎年アジア・太平洋地域の各国で盛大に行われており、4年に1度日本での開催となっている。このような継続的な国際会議開催の取り組みにより、アジア・太平洋地域のマイクロ波工学関連の研究者・技術者の交流が図られるとともに、それ以外の地域を含めた世界各地の研究者も参加するレベルの高い国際交流が実現できることとなり、高い学術的評価が得られている。

日本でのAPMCは、1990年のAPMC '90がはじめての開催であった。このときの国際運営委員会ではAPMCの日本開催を4年毎とすること

が決まり、それ以降の1994年、1998年、2002年、2006年および2010年には日本でAPMCが開催され、いずれも大きな成功を収めてきた。これに引き続き2014年の今回も日本で開催され、東日本大震災からの復興を遂げつつある仙台で通算第26回目のAPMC開催となった。

APMC 2014は、首都圏から空路や新幹線により比較的アクセスが容易であり、また近隣エリアに世界遺産に指定された平泉や日本三景の松島などの観光資源が豊富な、宮城県仙台市で開催することが決定され順調に計画が進められていた。その後、2011年3月11日に発生した東日本大震災により、仙台での開催自体が危ぶまれる事態となったが、会議のテーマを"Resilient Networks from the Microwave Heartland"とし、マイクロ波技術で長い歴史を有する東北大学が所在する仙台から震災の経験を活かした障害や災害に強いネットワークの技術を発信していくことを掲げて計画を続行した。その後の事前国際運営委員会や前年に開催されたAPMC2013において、福島原発事故の影響について安全性を説明するなどの配慮を行ったこともあり、世界36カ国から381人、日本国内から386人の合計767人の予想を上回る参加者数となった。

APMC 2014の準備を進めるにあたり、APMC国内委員会は、APMC 2014組織委員長および

実行委員長を選出するとともに、2012年9月28日に「2014年 アジア・パシフィックマイクロ波会議 (APMC 2014) 国際会議計画趣意書」を一般社団法人電子情報通信学会へ提出した。つづいて2013年1月には準備委員会を開催し、組織委員長、実行委員長のもとに組織委員会および実行委員会が組織され、2013年5月から活動が本格化した。実行委員会は、会場を仙台国際センター、会期を2014年11月4日(火)から7日(金)として、準備を進めた。

APMC 2014は、長期にわたる周知な準備と広報活動により、論文投稿件数は40ヶ国から704件(内、学生からの投稿は217件)に達し、日本からの論文投稿数は過去最多の217件となり、近年の台湾・中国・韓国等の追いつきに勝る増加率となり、前回日本で開催されたAPMC2010で投稿数が最多であった台湾から首位奪還を果たした。投稿された論文は厳正な査読プロセスを経て、その中から524件(内、学生の論文は167件)が採択された結果、採択率74%の質の高い会議を確実とした。それら

論文の発表形式は開催セッション数等を考慮し、Oral sessionsに285件、Open Forumsに239件の構成とした。

会議では、Special Sessions 21件を含むOral sessions 60件とOpen Forums 5件が行われた。またWorkshop 5件、Short Course 3件、Student Design Competition 2件、Technical Tour 1件、および別会場の秋保温泉でのRump Session 1件も開催された。更に、本会議での優れた投稿発表論文に対しては、APMC 2014 Prizeとして、最優秀論文4件、Student Prize 6件を表彰した。発展途上国からの優れた論文発表者に対しては、5名のサポートプログラム (Financial Support Program) を実施した。

APMCとしては、仙台での開催は初であったが、論文投稿数・参加者数ともに成功と言える地方開催事例として、今後予定されている地方開催の良い例となることができた。また日本国内、ならびにアジア・太平洋地域におけるマイクロ波工学・技術の進展に大きく寄与するものとなった。